

近畿地方中北部における臨時地震観測 2 Temporary earthquake observation in northern part in the Kinki region 2

○三浦勉、飯尾能久、片尾浩、中尾節郎、米田格、藤田安良、近藤和男、西村和浩、澤田麻沙代、多田光宏、平野憲雄、山崎友也、富阪和秀、辰己賢一、加茂正人、澁谷拓郎、大見士朗、加納靖之

○Tsutomu MIURA, Yoshihisa IIO, Hiroshi KATAO, Setsuro NAKAO, Itaru YONEDA, Yasuyoshi FUJITA, Kazuo KONDO, Kazuhiro NISHIMURA, Masayo SAWADA, Mitsuhiro TADA, Norio HIRANO, Tomoya YAMAZAKI, Kazuhide TOMISAKA, Ken-ichi TATSUMI, Masato KAMO, Takuo SHIBUTANI, Shiro OHMI, Yasuyuki KANO

We estimated the seismic records acquired by the MANTEN off-line stations in the middle and northern Kinki district. The observation period was one year; from November in 2008 to November 2009. We evaluated both the quality of data (S/N ratio, lack of data, shape of seismogram etc.) and the easiness of operating equipments (KVS-300 and EDR-7000)

1. はじめに

昨年度の発表に引き続き、一連の観測の運用状態と今後の計画についての発表を主として行う。まずは、2008年11月からの観測データを基に、評価を行った。それは、観測機器の評価、処理システムの評価、データの評価の3点から行うものとし、技術的な面からのアプローチをした。

本計画は、地震調査研究推進本部の委託業務「ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究」の一貫として行われている。

2. 観測点と現在までの履歴

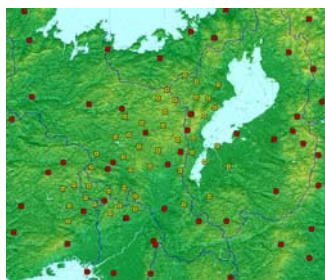


図1 観測点MAP

08年11月より、図1で示した観測点118点でデータ処理を行っている（赤丸は定常点、黄丸は臨時点を示す）。これまでに45点のオフライン観測点のデータを5回回収した。新規開発した計測システムであることや多くの点で臨時観測を行っているだけに、いろいろなトラブルがあったが、ようやく落ち着いてきた感がある。

3. 観測機器について

地震計 KVS-300 とデータロガーEDR-X7000 を利用し、最大半年間のメンテナンスフリーによる機器のメンテナンス性、欠測率、時刻精度を評価した。

4. データ収録・解析システム

データの質を評価するために、ノイズレベルモニタ・地動モニタを起動させた。これを監視することにより、メンテナンス性を上げたので報告する。

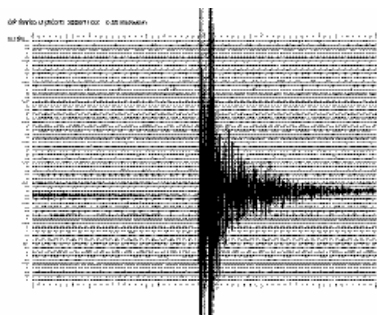


図2 波形モニタ

5. さまざまなトラブル対応

多点・長期間の地震観測のため、設置・メンテナンス及び処理システムに、トラブルが多々あった。そのトラブルについて例をあげて紹介する。

6. 今後の予定

今年さらに約50点の増設を計画中であり、データ処理に関して効率的な運用が望まれる。